

有効なワクチンが備えるべき条件と今回のmRNA型ワクチン

有効なワクチンの特徴		今回のmRNA型ワクチンでは
安全性	ワクチン自身が病気や死を招いてはならない	ワクチン自身が病気や死を招いている ×
防御能	ワクチンは生きた病原体に曝露されても病気を起こさぬよう防御できなければならない	オミクロン型の登場によりほとんど防御できなくなった ×
防御効果の持続	病気に対する防御能が数年は続かなければならない	効果は数ヶ月(最近では三ヶ月) ×
中和抗体の産生	いくつかの病原体(例えばポリオウイルス)は再生不能な細胞(例 神経細胞)に感染する。それらの細胞の感染を防ぐためには、中和抗体がなければならない	中和抗体は誘導されるがすぐに減衰してしまう。△～×
防御に働くT細胞の誘導	いくつかの特に細胞内寄生型の病原体は、細胞性免疫応答によって、より効率的に処理される	細胞性免疫は誘導されるが効果は疑問 △
実用化に向けて考慮がある点	接種あたりの費用が低いこと。生物学的に安定であること。接種が容易であること。副作用がほとんどないこと。	コストは安いが生物学的安定性に課題あり。顕著な副作用。×

Janeway 免疫生物学第9版 第16章



32



- 有効なワクチンは病気に対する防御能が「数年は続かなければ」ならない
- しかし追加接種が必要になるのだから効果が続かないことは明白
- この観点から、また安全性に関しても新型コロナワクチンは、ワクチン失格
- 表は @molbio08氏ツイートより

図 4-1-4: 3回でも何回でも接種すれば有効というのは根本的に間違い